

関東甲信越地区教頭研究大会参加報告

平成20年度第49回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会埼玉大会並びに埼玉県公立小中学校教頭会研究大会が、関東甲信越地区から1000名余の副校長・教頭が参加し、平成20年11月12日(水)・13日(木)の両日、埼玉県さいたま市で開催された。

研究主題である「生きる力をはぐくむ 豊かな学校をめざして」のテーマと子どもの人間力の育成と新しい時代の学校づくりをサブテーマに、14の分科会で提言と討議がおこなわれた。

分科会では、第3課題「施設・設備及び事務に関する課題」に参加した。東京都羽村市立小作台小学校より、児童一人ひとりの安全に対する実践力を育てるために、学校・保護者・地域と一体となった安全教育プログラムの推進について、子どもの安全を守るシステムづくりを柱に、各学校の現状と課題、教頭としての効果的な関わりと予算づくり、整備充実について、防犯カメラの活用や地域・PTAと連携した活動事例をもとに提言された。

防犯カメラが実際の不審者対応に効果的に機能したことや、地域と一体となった防犯活動では、安全マップや巡回パトロールで大きな効果を上げている様子が資料をもとに発表された。様々な危険が子どもたちを取り巻く中、学校の安全を確保することは、保護者、地域の方々の大きな願いであり、教頭として、学校・保護者・地域が一体となった活動について協議を重ね、課題改善を図ることを確認した。

また、埼玉県嵐山市七郷小学校より、施設・設備の整備・改善・維持及び活用に向けての対応として、生きる力をはぐくむ豊かな学校づくりを目指して、(1)施設設備の整備改善及び現状と課題、(2)施設設備の安全管理及び情報管理の在り方、(3)施設設備の整備・改善・維持及び活用に向けての副校長・教頭のかかわりについて、以上の3点をもとにしたアンケートの調査結果と分析・考察について提言があった。

アンケートの調査では、施設・設備の整備・改善・維持について、事務処理の能率化、情報管理についての項目について調査し、その結果をもとに積極的かつ有効な活用に向けて教頭としてどうあるべきか発表があった。

「生きる力をはぐくむ心豊かな学校づくり」を目指して、教頭として施設・設備の安全管理及び情報管理とその有効活用に向けた取り組みの現状と課題などを明らかにし、力を注がなければならないことを確認した。

(学校運営研究部会 齊藤正人)